

社会福祉法人 十和会 事業報告

法人全体

1. 研修及び訓練について

今年度については感染症予防等施設内の研修は時期はずれたものの年2回行えたが、消防訓練等についてはコロナ感染症により年1回の訓練になってしまった。

また、施設外研修は少しずつではあるが参加した。

2. 実習及びボランティアの受け入れについて

実習・・・梅花大学 看護学科より5名 宝塚医療専門学校より2名
ボランティアについては今年度受け入れていない。

3. コロナ感染症について

4月以降職員より感染症発症者が出始め、入居者が発症したフロアーもあり、各フロアー毎に保健所の指導に基づき対応を行った。また、面会については自動ドアを挟んでの面会を行い、その後感染症の状況で特養は1階ロビーにて、なごみの里は1階リビングにて感染対応をして上で2名までの面会を行った。

4. 設備について

特養1階の空調設備及び特養LED照明、記録等をiPadにて行うためWi-Fi設備を特養棟及びなごみの里に導入した。

5. 実施指導について

ケアプランセンター及びヘルパーステーションに実施指導があり、改善箇所については報告書を提出した。ケアプランセンターについては契約書及び同意書において文言が抜けている方が数名いたため、その方について返還請求となった。

特 養

目標稼働率93% 実稼働90.85%

施設ケアマネジャー

1. 入居者に新型コロナウイルス感染者が複数発生。保健所と連携取り対応した。
2. コロナ感染者発生時だけでなく、入居者に濃厚接触の可能性があった場合は感染対応を行った。家族の面会に関しては自動扉越しや1階ロビーでの面会を行った。
3. コロナ感染者が発生し、介護職、看護職、その他の職種及び協力病院との連携を密にし、保健所の指導等に従った。

生活相談員

1. 今年度は入居者から感染者が出たため、保健所及び協力病院もしくはその他病院との連携及び調整を行った。
2. 感染対応時、家族からの面会の調整も面会方法等を説明し理解して頂いた。

機能訓練指導員

1. 新入所時、3ヶ月毎の見直し時と病院からの退院時に、各入所者様の評価をし、プログラムを決めて週1回実施した。週1回以上実施が必要な方は、脳卒中片麻痺や寝たきりで拘縮の強い方、進行性の疾患の方、骨折後の退院で集中してリハビリの必要な場合など、評価した結果で判断し、できる範囲で週2回実施した。
2. 機能訓練実施中の状態を必要な場合に随時、Ns.やCWに報告・相談した。体調不良（熱発、

血圧の高低、脈拍の様子、強い痛み、嘔吐、転倒など)を考慮し、中止し、Ns.に相談し、Dr.に伺ってもらった場合もあった。

3. ケアマネジャー、相談員、介護職員、看護師、理栄養士との情報交換をし訓練の検討を行った。また、施設内の研修参加で新しい情報・知識を学んだ。

管理栄養士

1. 行事について

- ・ 毎月の献立での行事食は、委託会社と協力しスムーズに行えた。
- ・ 今年度もフロア単位での行事を実施するのが難しくできなかったため、にぎり寿司や天ぷらなど人気のある献立は通常の献立に取り入れることにより提供した。

2. 業務全般について

- ・ 食事については委託会社と協力し、利用者様に提供できた。
特別なメニューについても早い段階で委託会社に相談することにより取り入れることができた。
- ・ 日常の業務を見直し、フロアへ上がる時間を増やし栄養ケア・マネジメントもスムーズに行う予定でしたが、感染対応等のため今年度は思うようにできなかったため、来年度に行うこととした。
- ・ 外部の研修へほとんど参加できなかった。
- ・ 衛生面に注意し安全に食事を提供できた。

介護職

1. 業務について

コロナ感染症の対応等、看護師及び他職種と連携をとり拡散は防げた。また、家族より感染した職員や、濃厚接触者となり休む職員が多かったが、生活の質は維持し、介護を行った。また、4フロア同時の感染対応はなく大変ではあったが、管理医師及び看護師の指導の下マニュアルに沿った感染対応を行った。

全体行事は行わなかったが、各フロアにて誕生会など最低限の行事を行った。

2. 研修について

施設内研修は予定通りではなかったが、時期をずらしたりして各研修を行った。

また、外部研修についてはオンラインであったり、参加型であったり全員ではないが参加した。

看護師

1. 今年度は昨年度に比べ、職員からの入居者への感染が増えたため、感染対応の回数が多くなった。そのため入居者の様子等をこまめにチェックし、また介護職からの報告等連携を取りながら業務を行った。
2. 感染対応については管理医師、保健所と連携を取りながら業務が行えた。また、介護職の新人職員に対する課題が少し残った。

短期入所生活介護

目標稼働率 95% 実稼働率 115.1%

1. 目標稼働は達成できた。
2. 新規の人や緊急で利用された人に定期的に利用してもらうよう働きかけ、定期的に利用してもらっている
3. 新型コロナウイルスの影響もあり、予定変更等があり予定が読めない事があった。

個別機能訓練

1. 新しいショートご利用者様、6ヶ月以上空いたご利用者様全員の評価を実施し、プログラムを決め、6ヶ月毎に見直した。
2. ショート利用者様（6ヶ月毎）全員の見直しを実施。ショート利用者様は利用の日によって、日付がずれることがあった。
3. 機能訓練実施計画書についてショート利用者様は6ヶ月毎に見直し作成した。

デイサービス

目標稼働率73% 実稼働率64.5%

1. 目標稼働率には届かなかったが、併設のなごみの里の利用者がコロナ感染症になり、その階の利用者がデイサービスの利用を中止となったことが数回あり、その部分を除くと目標に近づいている。尚、曜日ごとの利用も上半期はばらつきが見られていたが、下半期はすべての曜日にまんべんなく利用者が入り稼働率の安定に繋がったと考えられる為、今後も維持していく。
4. コロナ感染症については、サービス全体を中止するには至らなかった。
5. 施設内研修にも参加できた。

ケアプランセンター

目標稼働率80% 実稼働率73.3%

1. 家族や地域包括支援センターからの紹介が増えたため、利用者数は月1~2人の増減があったがほぼ横ばいで推移し、前年度と比較するとやや増加した
2. 施設内外の研修に積極的に参加し、知識、技術の向上に努めた
3. 実地指導での指摘事項について、改善を行い、運営基準の確認、法令遵守に努めた。

ヘルパーステーション

1. 利用者は全てなごみの里の入居者となっている。利用者数はほぼ横ばいで推移した。
2. 施設内研修や委員会活動に参加し、知識、技術の向上、業務の改善に取り組んだ。
3. 医療機関やケアマネージャーと連携し、利用者の健康増進、QOLの向上に取り組んだ。

サービス付高齢者住宅

1. 例年に比べ、入退所は少なく、全体の入居者数39名でほぼ横ばいで推移した。
2. 紹介会社からの紹介は減少したが、ケアプランセンター等の事業所からの紹介の割合が多かった。
3. 入居者、家族から終末期も受託で過ごしたいと希望されるケースが多かった。往診医と連携し、終末期も可能な限り住宅で過ごせるように取り組んだ。
4. 新型コロナウイルスの感染予防に努め、陽性者発生時にも感染拡大を防ぐように往診医や保健所と連携をとり適切に感染防止策を行った。